

愛知県図書館報

あゆち

Vol.19



特集

愛知のものづくり

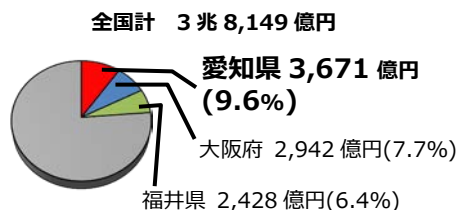
愛知のものづくり

ものづくり王国として有名な愛知県。愛知県図書館は、平成 30 年度の 1 年間「明治をはぐくんだものづくりのこころ」をテーマとして、ものづくりに焦点を当てた展示・イベントを行いました。今号のあゆみではその中でも、愛知県の繊維産業・窯業・機械（自動車、航空宇宙、ロボット）産業を紹介します。

繊維産業

明治期から戦後の高度成長期まで愛知県の産業発展を支えてきたのが繊維産業です。県内には、テキスタイルからアパレル、インテリア、産業資材まで多種多様な繊維関連産業が集積しています。一宮市を中心とした尾張地域では毛織物、知多地域では綿・スフ織物、三河地域では綿・スフ織物と漁網の生産が盛んです。

繊維産業の製造品出荷額等とシェア(平成 28 年)



窯業

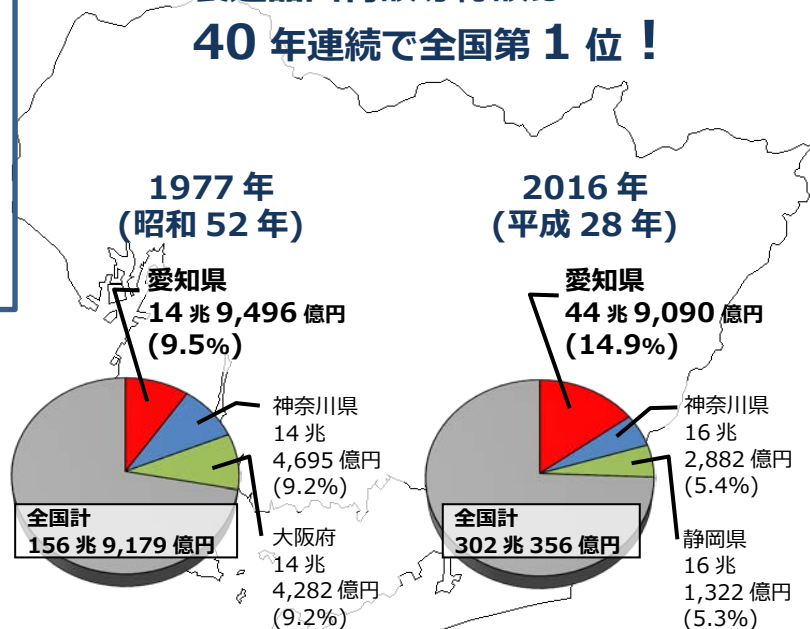
長い歴史を持つ愛知県の窯業。古くは 5 世紀後半から生産が始まった猿投窯にまでさかのぼることができます。現在も全国有数の窯業製品の産地であり、飲食器・がい子(し)中心の瀬戸市、タイル・衛生陶器中心の常滑、かわら中心の碧南市・高浜市と、地域ごとに特徴的な製品を作り出しています。

主な窯業製品の出荷額 (平成 28 年)

うわ葉かわら、塩焼きかわら	229 億円	
衛生陶器	394 億円	いずれも
がい子、がい管	199 億円	全国第 1 位！
理化学用・工業用陶磁器	538 億円	

愛知県は日本一のものづくり県！

製造品出荷額等総額は
40 年連続で全国第 1 位！



1976 年(昭和 51 年)比で
10.5%増加
神奈川県を抜いて 1 位に

総額は 40 年前の 3 倍超
2 位以下を大きく引き離す
シェア 10%越えは愛知県のみ

機械産業

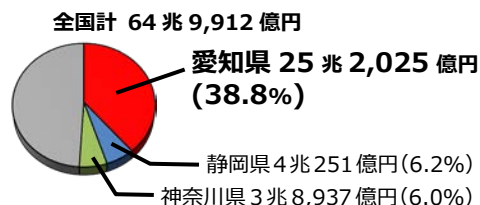
自動車

自動車産業は日本の主力産業であると同時に、愛知県のものづくりを牽引する基幹産業でもあります。日本有数の自動車メーカーの本社をはじめ、車体組立、部品製造、研究開発等数多くの自動車関連企業が豊田市、名古屋市、刈谷市、岡崎市など県内各地に集積しています。

航空宇宙

国の国際戦略総合特区「アジア No.1 航空宇宙産業クラスター形成特区」の指定を受けた愛知県には、豊山町にある国産ジェット旅客機の開発拠点を始め、名古屋市、飛島村、半田市などに航空宇宙産業に関連する様々なメーカーが集積し、今後の成長産業としての期待が高まっています。

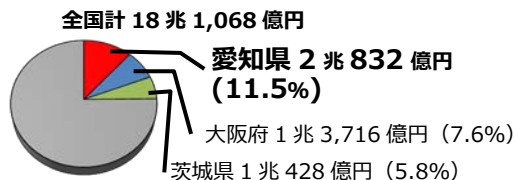
輸送用機械器具製造業（自動車、航空機含む）の製造品出荷額等とシェア (平成 28 年)



ロボット

愛知県ではロボット産業を自動車、航空宇宙に次ぐ第 3 の柱として位置付けています。工場で使われる産業用ロボットの製造だけでなく、近年注目を集めている介護支援、移動支援ロボット等の研究開発が県内の企業や大学で進められています。

生産用機械器具製造業（ロボット含む）の製造品出荷額等とシェア (平成 28 年)



工業統計調査について

工業統計調査は国が行う統計調査の一つで、1909 年(明治 42 年) から始まりました。日本の工業の実態を明らかにし、国や地方公共団体の行政施策の基礎資料になるものです。調査結果は経済産業省のホームページで公開されています。愛知県図書館では調査結果を冊子体にまとめた『工業統計表』を昭和 20 年版から平成 26 年版まで所蔵しています。(以降はホームページ上で公開)

◎製造品出荷額等などの統計数値は、以下の資料を参考にしました。

- ・経済産業省「平成 29 年(平成 28 年実績)工業統計調査 地域別統計表」、「同 品目別統計表」
- ・『工業統計表 産業編 昭和 52 年』(通商産業大臣官房調査統計部編、大蔵省印刷局、1979.9)

繊維産業

繊維会社がわかる本

『全国繊維企業要覧 vol.51(2018)』

信用交換所総合事業部/編集 信用交換所東京本社 2017
全国の繊維関連企業、約 21,000 社のデータ(所在地・取扱品・資本金・仕入先・販売先・業績・沿革など)が掲載されています。東日本 3 冊、西日本 3 冊の 6 分冊と索引に分かれており、愛知県の企業は、東日本 2 に掲載されています。



『御幸百年史』 社史編纂委員会/編纂 御幸ホールディングス 2005
1905(明治 38)年、名古屋で創業した御幸(みゆき)ホールディングス株式会社の社史。表紙には、大正初めに特許を取得したクラブ縮緬(ちりめん)の複製が使用されています。



繊維産業の歴史を感じる本

『臥雲辰致(がうんときむね)とガラ紡機』増補 北野進/著 アグネ技術センター 2018
明治時代に臥雲辰致によって発明されたガラ紡機。三河地方で多く製作され活躍しました。ガラ紡機の特徴や発明にいたるまでの道のりが描かれています。



『糸がつむぐお話 [1]・2』 末松グニエ/文・著 一宮地場産業ファッションデザインセンター監修 モリリン 2014
一宮市の複数の紡績工場内の写真集。1 本の糸が布になっていく様子が写真によって表されています。



【コラム】愛知ブランド企業

愛知県は、愛知のものづくりを世界的ブランドへと展開するために、県内の優れたものづくり企業を「愛知ブランド企業」として認定しています。そのうちの一家がシャチハタ株式会社です。こちらは、紅白の洒落た表紙の『シャチハタ八〇年史』。

赤色の部分は、スタンプ台と朱肉を表しているように見えますね。大正 14 年、万年スタンプ台から始まった企業が、愛知から世界へと浸透印市場を広げていく過程がわかります！



『シャチハタ八〇年史』 社史編纂委員会/企画編集 シャチハタ 2007



窯業

愛知のやきもの

愛知県は古代から、やきものが盛んな地域です。特に瀬戸と常滑は、中世を代表する日本六古窯に含まれる等、全国的に有名な窯場として知られています。

【瀬戸】飲食器の生産地。近代には各種博覧会に出品し、海外への輸出も活発でした。

【常滑】壺や甕作りが盛んですが、近代以降は土管や植木鉢、衛生陶器なども生産しています。



『小学科用愛知県地理小誌』 東壁堂 明 21(1888)

窯業の今と昔がわかる本



『やきものの町 瀬戸』岩波書店 1955
多くの写真を通して、暮らしと「せともの」づくりが密着した瀬戸の町の様子を生き生きと紹介します。



『三州瓦と高浜いま・むかし』 高浜市やきものの里かわら美術館 2010
日本の瓦シェア一位を誇る三州瓦の歴史と未来を、図版や写真を交えて分かりやすく解説します。



『愛知県商品陳列館図案資料』 愛知県商品陳列館 大 5(1916)
愛知県商品陳列館は、明治 43(1913) 年、大須門前町に竣工した壮麗な建物で、愛知の貿易振興の拠点として、様々な催しが開かれました。左図は意匠図案奨励会に出品された輸出用の珈琲碗です。

【コラム】セラミックス王国・森村グループ

森村グループは、貿易商社森村組(現森村商事)に端を発する、世界最大級のセラミックス企業集団です。創業者である森村市左衛門は、明治期に米国向け輸出貿易で財を成し、日本陶器(現ノリタケカンパニーリミテド)を設立して、洋食器の製造に取り組むようになります。その磁器製造技術を生かした各部門を順次分離独立させた結果、森村グループは世界屈指の企業体に成長しました。グループにはノリタケ・大倉陶園(洋食器)、TOTO(衛生陶器)、日本ガイシ(電力供給のための碍子)、日本特殊陶業(エンジンの点火プラグ)等を有しています。タイルで有名な常滑の INAX(現 LIXIL)も森村グループと縁の深い企業でした。当館では森村グループ会社の社史も多く所蔵しています。



『土と炎の世紀 ノリタケチャイナと製陶王国の100年史』 愛知県陶磁資料館 2003



『製陶王国をきずいた父と子 大倉孫兵衛と大倉和親』 砂川幸雄/著 晶文社 2000

機械産業

機械会社がわかる本



『愛知ブランド企業の底チカラ [1]・2』共同通信社 2008, 2018

輸送用機械や各種機械器具始め、様々な分野の特色ある愛知のものづくり企業を多数収録しています。創業時のエピソードや躍進のきっかけ、転機となった開発秘話なども紹介されていて興味深い資料です。

『トヨタ産業技術記念館ガイドブック：改訂版』トヨタ産業技術記念館/編 2018

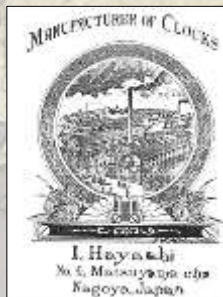
日本の自動車産業をリードする企業トヨタの、機械産業技術の発展の歴史がよくわかる博物館図録。

『図解 DMG 森精機』日刊工業新聞社/編 2014

ヤマザキマザック、ジェイテクト、オークマと共に四大工作機械メーカーの1つに挙げられるDMG森精機を、様々な視点から図解したものの。



機械産業の歴史を感じる本



『Catalogue of Hayashi's Clock Factory』

林時計製造所/編 [明治時代]

掛け時計の国産化に初めて成功した林時計の、海外輸出を意識した商品カタログ。創業者の林市兵衛は、明治24(1891)年に名古屋の松山町(現東区東桜)に、近代的大規模な工場を建設。当時の名古屋は、東京と並び時計産業の拠点として、特に掛け時計では、国内における最大の生産地でした。



『車両案内』日本車両製造/編 1925

現・日本車輛製造の、戦前の自社製造品の写真集。明治29(1896)年に、愛知県熱田町(現名古屋市熱田区)で創業し、本店工場を設立して鉄道車両の製造販売を開始しています。同年、同地に創立された鉄道車輛製造所も蒸気機関車の製造を開始しており、近代の名古屋はまさに国内における鉄道車両の生産拠点となっていました。

機械産業の流れがわかる本



『中部の産業：構造変化と企業家たち』安保邦彦/著 清文堂 2008

中部地区に焦点を当てて、その社会や産業界の、近代から現在に至る時代の流れを読み解いた一冊。「ものづくり王国あいち」を築いた企業群の誕生の経緯を知ることができます。

『ロボット産業最前線 2019』産業タイムス社 2018

ロボット市場の動向を概説した上で、様々な種類のロボット関連企業・団体の最新状況を紹介しています。



『民間航空機関連データ集 平成29年度版』日本航空機開発協会 2018

航空機メーカー、航空会社、航空輸送等に関する国内外の統計データを収集しており、航空産業界の最新の現状を把握することができます。

【コラム】愛知の博覧会の歴史

文明開化を象徴する存在として、明治期に博覧会が全国各地で大流行します。愛知では、1874(明治7)年の名古屋博覧会、1910(明治43)年の第十回関西府県連合共進会が有名です。昭和に入ると、産業振興への啓蒙や知識の普及のためから、集客による経済効果を目的とする博覧会へと変化します。1928(昭和3)年には、天皇即位の祝賀のための御大典奉祝名古屋博覧会、1937(昭和12)年には、国際平和を目指す名古屋汎太平洋平和博覧会が開催されています。



『名古屋の博覧会』名古屋市博物館/編 1982



『第十回関西府県連合共進会 出品陳列 意匠写真帖』名古屋商業会議所 1910



『御大典奉祝名古屋博覧会』1928

1階エントランスリニューアル!!



2018 年3 月に愛知県図書館1 階エントランスがリニューアルし、「Y o t t e k o」（ヨッテコ）として生まれ変わりました!

テーブルや椅子、展示架のデザインは県立芸術大学の夏目研究室が監修し、県産材を使った明るい空間となりました。



テーブルを使うのに特別な予約はいりません。おしゃべりだってOK!

使い方は、グループ学習、会議の打ち合わせなどなど…。

展示架やレクチャーコーナーでは定期的にイベントや展示も行われます。

Yotteko に、寄ってこ!



あゆち 愛知県図書館報 第19号 平成31年 3月22日発行

編集・発行 愛知県図書館

〒460-0001 名古屋市中区三の丸一丁目9-3

電話 (052) 212-2323 (代表) / (052) 212-3200 (調査相談)

ホームページ <https://www.aichi-pref-library.jp>

携帯サイト <https://websv.aichi-pref-library.jp/k/index.html>

●開館時間 火～金 10時～ 20時

(児童図書室・視覚障害者資料室は10時～ 18時)

土・日・祝日 10時～ 18時

●休館日 月、毎月第2木(その日が祝日(振替休日・国民の休日)に当たるときは開館、次の平日に休館)、
年末年始、館内整理のための休館



ISSN 1880-5663